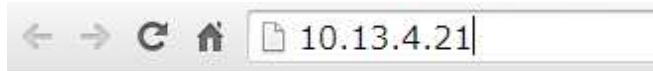


MOBOTIX ビデオモーション検知 (VM)

ビデオモーション検知の設定

1. ブラウザから設定したいカメラにアクセスします。



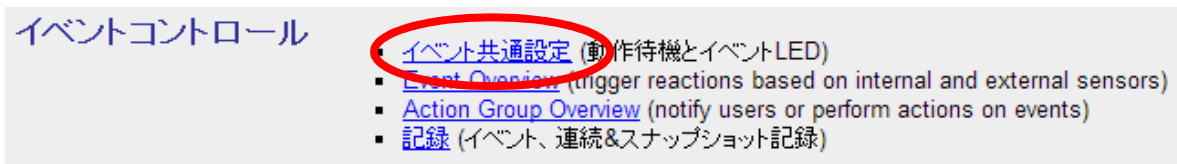
2. カメラ画面の左上にある「Setup Menu」をクリックしてください。



3. ユーザー名とパスワードを聞かれた場合、下記の初期値を設定してください。

ユーザー名 : **admin**
パスワード : **meinsm**

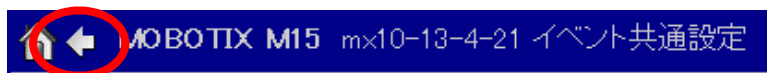
4. イベントコントロールの「イベント共通設定」を選択してください。



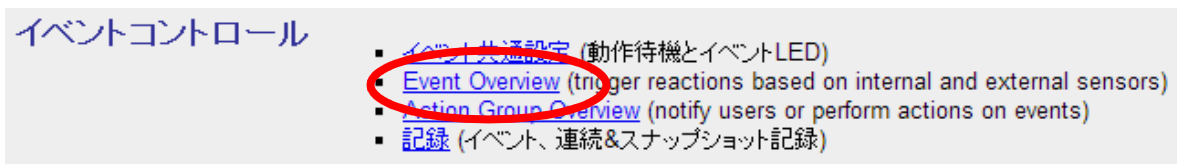
5. 動作待機「Enabled」を選択してください。



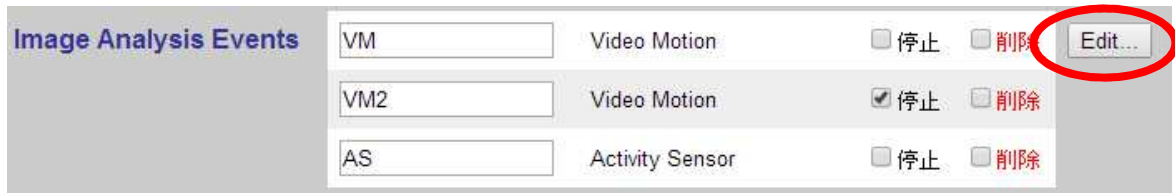
6. ページ下の「設定」ボタンをクリックし、「←」ボタンより前の画面に戻ってください。



7. イベントコントロールの「Event Overview」を選択してください。



8. Image Analysis Eventsの「Edit」を選択してください。



9. 次に、ビデオモーションをかけるエリア領域を入力します。
(初期設定で3エリアが指定されていますが、変更する場合は座標を削除してください。)

```
0,540,380,200,200,s=20,a=25,id=1  
0,140,330,200,300,s=20,a=25,id=2,col=blue  
0,940,330,200,300,s=20,a=25,id=3,col=blue
```

10. 一度ライブ画像に戻り、エリア領域をかけたい左上部分に「Shiftキー」を押しながら1クリックします。すると、黄色いポイントが表示されます。



11. エリア領域をかけたい右下部分に1クリックのみ行います。すると黄色い長方形の枠が表示されます。



12. この状態で「Image Analysis Events」ページに戻り、ページ下部の「VM」左横の「▶」をクリックし、隠れた部分を表示させます。

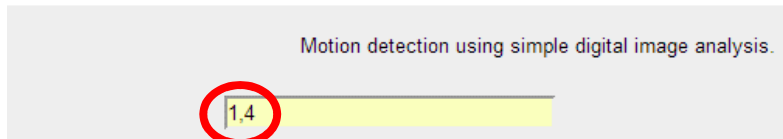


13. Window Listの下にある「矩形領域の追加」をクリックしてください。



14. ビデオモーションID番号が追加され、**Video Motion Settings**に座標軸が自動的に入力されます。その時、追加されたビデオモーションID番号は座標軸のIDと紐づいています。

Event Sensor Type Activity Sensor
 Video Motion



```
0,540,380,200,200,s=20,a=25,id=1
0,140,330,200,300,s=20,a=25,id=2,col=blue
0,940,330,300,300,s=20,a=25,id=3,col=blue
0,947,552,130,205,s=20,a=25,id=4
```

※「col」に色を指定すると、枠の色を変更することができます。

※複眼レンズの場合

- レンズ 「0」 =right
- レンズ 「1」 =left

15. ビデオモーションの感度、閾値を調整します。
 座標軸は左から[レンズ,X軸,Y軸,幅,高,感度,閾値,ID]になります。

0,947,552,130,205,s=20,a=25,id=4

NOTE

感度：0に近くなるにつれ反応が良くなり、99に近づくにつれ反応が悪くなります。例えば白から黒とはっきりとした変化が生じない限りピクセルの色変化としない場合は、数値を高くします。
 逆に白から灰色でも反応させたい場合は、数値を低くします。

S：0~99(初期設定:20)

閾値：エリア領域内の閾値(%)を設定し、この閾値以上のピクセルの色変化が生じた場合、初めてビデオモーション検知が反応します。

a：0~99 (初期設定:25) →最低閾値

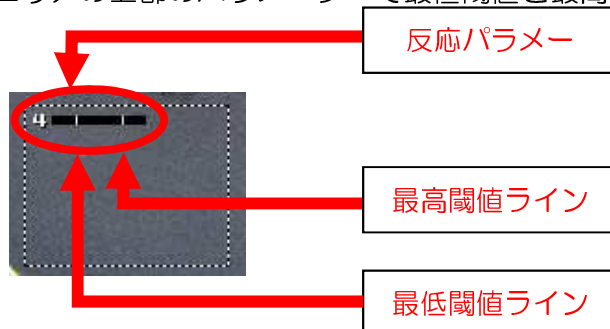
am：0~99 (初期設定:なし) →最高閾値

※最高閾値を入力すると、エリア領域内のx%からy%の間の変化率のビデオモーションを反応させることが可能です。**am(最高閾値)**は初期設定では表示されません。都度入力して下さい。

例: **0,758,341,49,94,s=20,a=25,am=75**

(25%以上75%以下のピクセル色変化の場合、ビデオモーションがトリガされます。)

※エリアの上部のパラメーターで最低閾値と最高閾値が表示され、反応パラメー



16. また、座標軸の先頭に「!」を入力することで、「reference window(リファレンスウィンドウ)」として設定することが可能です。リファレンスエリアとは、そのエリアが反応した場合に、ビデオモーション検知の反応を無効にすることができます。ただし、リファレンスウィンドウが反応し続けた場合、ビデオモーションは無効になり続けるため注意が必要です。

例: ! 0,833,400,24,57,s=20,a=25



エリア表示が黄色く表示されます。

17. 削除したいエリア領域は座標を選択し、「delete」で1ライン削除します。

```
0,540,380,200,200,s=20,a=25,id=1
0,140,330,200,300,s=20,a=25,id=2,col=blue
! 0,940,330,200,300,s=20,a=25,id=3,col=blue
0,947,552,130,205,s=20,a=25,id=4
```

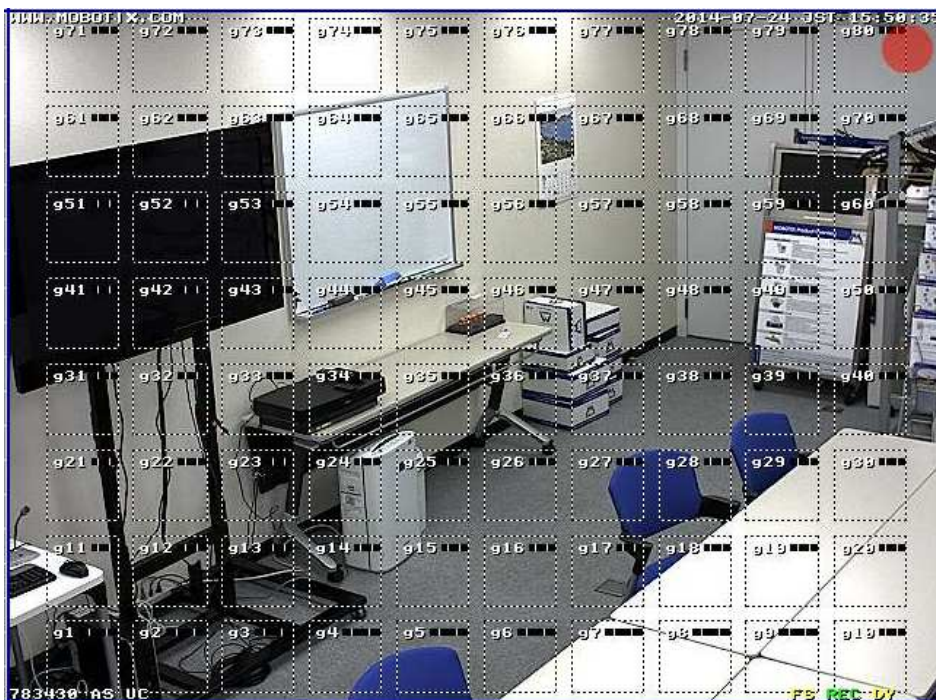


```
0,540,380,200,200,s=20,a=25,id=1
0,140,330,200,300,s=20,a=25,id=2,col=blue
0,947,552,130,205,s=20,a=25,id=4
```

18. ビデオモーションのエリア領域を、画面全体に設定したい場合、全体を上記のような設定で行うと、被写体に対して反応率が低すぎて反応しないことが想定されます。また、最低閾値を下げることにより、誤反応も想定されます。そこで、自動生成ウィンドウを使用します。

座標軸内に、\$generate=0,100,100,20,20,25,25,70,70

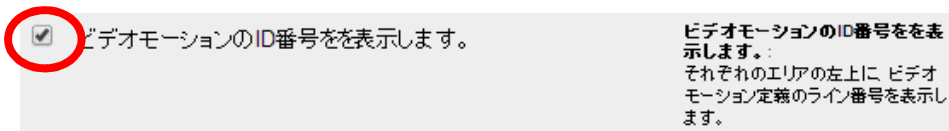
(左から[レンズ,幅,高,水平間隔,垂直間隔,最低閾値左, 最低閾値右,最高閾値左, 最高閾値右, 最高閾値左]*数値は自由に変更可能)と入力すると、画面全体に整列してビデオモーションが自動生成されます。



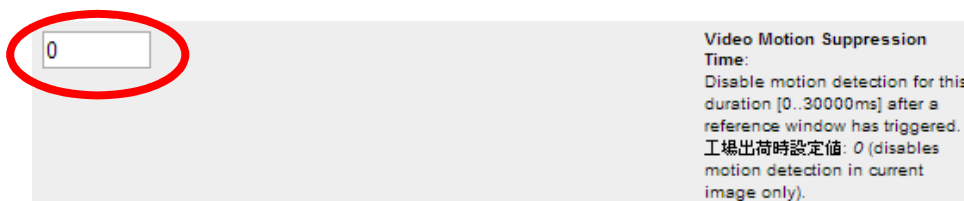
18. 次にビデオモーションエリアの表示の有無を**Video Motion Settings**のグループ1のビデオモーションスタイル「▼」をクリックし、選択します。



19. ビデオモーションエリアのID番号を表示する場合、チェックマークを入れます。



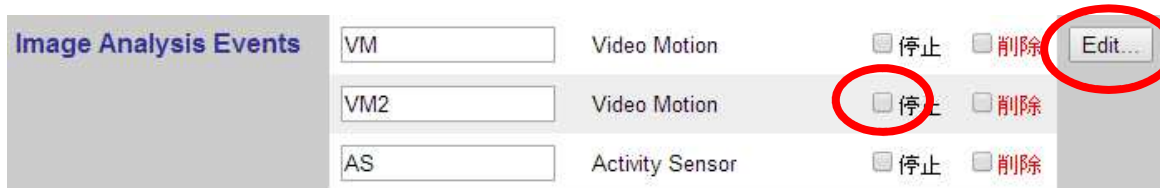
20. リファレンスエリアを設定しそのエリアが反応した場合、その後のビデオモーション無効時間を入力します。[0~3000m秒]



21. 暗闇時におけるビデオモーション検知の有無を選択します。
選択した照度(lux)以下になった場合、ビデオモーション検知は動作せず、ノイズによる誤検知を防ぎます。



22. ビデオモーション検知2も使用したい場合は、「Event Overview」に戻り、「Image Analysis Events」 「VM2」の「停止」のチェックマークを外し、「Edit」を選択してください。



23. 「Image Analysis Events」 ページ下部の「VM2」左横の「▶」をクリックし、値を設定します。



24. 最後にページ下の「設定」ボタンをクリックして、画面が切り替わった後「閉じる」ボタンをクリックして、ポップアップページの「OK」でフラッシュメモリに保存して終了です。

